

全国45経済同友会共催 第19回 全国経済同友会セミナー

ヒューマン・ルネサンス
～経済人に、今、求められるもの～

全国経済同友会セミナーが4月13、14日の両日、広島県広島市で開催され、全国の経済同友会から1,000名を超える会員が参加した。

セミナーのテーマは、「ヒューマン・ルネサンス～経済人に、今、求められるもの～」。グレゴリー・クラーク氏（多摩大学名誉学長・教授／国際教養大学副学長）による基調講演「人づくりと日本文化」、4つの分科会でのパネルディスカッション、村田兆治氏（野球解説者）による特別講演「『先発完投』—全力投球のわが人生」などが行われ、盛況のうちに幕を閉じた。

次回同セミナーは2007年4月12、13日の日程で、石川県金沢市で行われる予定。

各分科会のテーマと討議の概要は次のとおり。



1:会場の模様 2:歓迎挨拶をする角廣 勲氏（広島経済同友会代表幹事）3:開会挨拶をする茂木友三郎氏（全国経済同友会セミナー企画委員会委員長）4:基調講演をするグレゴリー・クラーク氏 5:特別講演をする村田兆治氏 6:総括挨拶をする北城悟太郎氏（経済同友会代表幹事）

第1分科会 「モノづくりの伝承そして革新」—ローカルからグローバルへ—

議長	横浜国立大学 経営学部 教授	曹 斗燮氏
パネリスト	中部経済同友会 代表幹事／ノリタケカンパニーリミテド 会長 山形県工業会 副会長／NEC パーソナルプロダクツ 執行役員 広島経済同友会 幹事／モルテン 社長	岩崎 隆氏 柴田 孝氏 民秋 史也氏

【パネルディスカッションでの発言より】

- * 「モノづくり」という言葉には、欧米から導入した技術に、日本独自の加工技術（現場の知恵）を施した自負があるように思う。この現場の知恵こそが、モノづくり技術の本質である。（曹氏）
- * モノづくりは人づくりであり、マジックはない。愚直に黙々と進むものである。「積み重ね、伝承する」—これがポイントだ。（岩崎氏）
- * 山形県米沢では、上杉鷹山の流れでクラスターをやっている。外部から人材を導入し、教育を施し、その人材を外に出し、再び戻ってきてもらうというものだ。（柴田氏）
- * モノづくりには2つの課題がある。ひとつは現在の技術をどのように伝承するか、もうひとつはトータルマネジメントシステム、つまり人づくりの問題である。（民秋氏）

第2分科会 「経営者が果たすべき社会的責任」 —信頼される「企業像」「企業文化」とは—

議長	関西経済同友会 代表幹事／西日本電信電話 社長	森下 俊三氏
パネリスト	富士メガネ 会長 滋賀経済同友会 特別幹事／滋賀銀行 頭取 ジョンソン・エンド・ジョンソン 社長	金井 昭雄氏 高田 紘一氏 松本 晃氏

【パネルディスカッションでの発言より】

- * 企業が構造改革に取り組む過程で、“行き過ぎた競争至上主義”や“法律に違反しなければ何をやってもよい感覚”が広がり、また、株主を過度に重視する経営へのシフトも見られた。(森下氏)
- * 3代目社長が掲げた「我が信条」には、誰に対する責任かが4つに分けて書かれている。顧客、従業員、地域社会、株主。この順番が大事である。(松本氏)
- * 企業不祥事に対し、官から民への流れが間違いとすることは、解決につながらない。会社とは何か、企業の社会的責任とは何か、経済人としての日常のモラルが問われている。(高田氏)
- * 難民の視力補正を行う活動を23年間続けている。この間、1億円あまりの費用をかけたが、うち1500万円ほどに交際費課税がなされた。現状の税制には再考の余地があるように思う。(金井氏)

第3分科会 「世界に通じる人づくり」 —人間力とは—

議長	京都経済同友会 代表幹事／堀場製作所 社長	堀場 厚氏
パネリスト	経済同友会 会員／青葉学園(東京医療保健大学) 理事長 経済同友会 会員／日本ゼネラル・エレクトリック 会長 立命館アジア太平洋大学 学長	田村 哲夫氏 藤森 義明氏 モンテ・カセム氏

【パネルディスカッションでの発言より】

- * 「人づくり」は全ての問題解決の原点だと思う。今こそ、グローバルに通じる人材の養成が急務であり、そのための施策やアクションを起こす必要がある。(堀場氏)
- * 人生最初の教師は両親であり、家庭内教育は非常に大事だ。多様性の文化を受け入れることを、家庭でも会社でも考える必要がある。(藤森氏)
- * 行動することを怖がってはいけぬ。今の社会構造はリスクを負担することにネガティブだが、親の教育が大切だ。親には、大物を見て育ててほしい。(カセム氏)
- * 自立させることが教育の最終目標。人生に使命感を持つこと、人生に情熱を持つことが重要である。これらは、親の責任であるとともに、世代の責任であるとの自覚が必要。(田村氏)

第4分科会 「勤労意識の変化、労働人口の減少に経営者はどう立ち向かうか」 —若者にとって魅力ある企業とは—

議長	広島経済同友会 代表幹事／中国新聞社 副社長	山本 一隆氏
パネリスト	新潟経済同友会 副代表幹事／アルビレックス新潟 会長 三菱重工業 社長 放送大学教養学部 教授 広島経済同友会 会員／マツダ 会長	池田 弘氏 佃 和夫氏 宮本みち子氏 渡辺 一秀氏

【パネルディスカッションでの発言より】

- * 社会システムの大きな変化により、東大卒、一流企業の社員でなくても日本的ヒーローになれる時代になった。最近の若者は大学へ行かないで、専門学校を選ぶ傾向にある。(池田氏)
- * 会社への帰属意識と仕事への熱意について、日本は世界最低水準。若年者の離職率が高いのは、“達成感を味わえる場”を会社が与え切れていないため。一方で、学校教育にも問題がある。(佃氏)
- * 20代後半までの若者の職業能力形成のため、積極的な支援システムが必要。現行の公共職業訓練機関の質的拡充と、民間機関への公的助成制度の拡充などを行うべき。(宮本氏)
- * 安定的な雇用確保のためには、終身雇用や年功序列制度がやはり必要ではないか。中途採用制度の充実や賃金制度の改革、職種別採用などを行っていかねばならない。(渡辺氏)